

# 令和6年度 日立市総合教育会議 会議録

日 時 令和7年2月5日（水） 午前10時から午前11時15分まで

場 所 日立市役所（4階庁議室）

構 成 員  
市長  
教育長  
教育長職務代理者  
教育委員  
教育委員  
教育委員

関 係 者  
副市長  
市長公室長  
教育部長  
理事

説 明 員  
教育委員会総務課長  
教育委員会総務課課長  
教育委員会学校施設課長  
教育委員会学務課長  
教育委員会学務課課長  
教育委員会学校再編課長  
教育委員会学校再編課課長  
教育委員会生涯学習課長  
教育委員会スポーツ振興課長  
教育委員会スポーツ振興課課長  
教育委員会指導課長  
教育委員会指導課課長  
教育委員会記念図書館長  
教育委員会郷土博物館長  
教育委員会北部学校給食共同調理場長  
教育委員会教育研究所長

事 務 局 教育委員会総務課職員

議 題

○授業におけるICTの効果的な活用について

報道関係

2社（茨城新聞社、JWAY）

傍聴者

無し

※ 読みやすさ等を考慮し、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

## 会 議 の 概 要

### 1 開 会

総務課長

ただ今から「令和6年度日立市総合教育会議」を開会いたします。  
本日の議題は、「授業におけるICTの効果的な活用について」でございます。  
それでは、会議の進行を市長にお願いいたします。

市 長

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

御案内のように、総合教育会議は、毎年、市長と教育委員会が一体となって日立の教育を進めていくための場でございます。

本日のテーマは、「授業におけるICTの効果的な活用について」でございます。

近年、国の指導により、全国的に教育のICT環境の整備が進められております。日立市においても、全児童生徒に対する1人1台タブレットの配備や、全小中学校への普通教室への電子黒板など、ICT環境の整備を進めてまいりました。

これらの環境整備を進めてきた結果、授業の中でどのようにICTが活用されて、子どもたちの学習にどのように生かされてきているのかということを検証しなければならないのではないかと考えております。

学校現場において、実際にいろいろな機器は整備したけれども、それをどのように活用したらいいのか、より効果の高い教育を目指していくことが必要であると思います。

本日は、各映像を見させていただく機会がありますので、勉強していきたいと思っております。

### 2 議 題

#### 授業におけるICTの効果的な活用について

市 長

それでは、早速ですが、議題に移ります。  
指導課長から説明をお願いします。

指 導 課 長

御説明いたします。  
日立市学校教育振興計画では、基本理念を「未来を拓く人づくり」

とし、4つの視点「ひたらしさ」「デジタル化」「誰一人取り残さない教育」「支え合い」を示しております。本日は、その中の「デジタル化」について説明させていただきます。

文部科学省が推進しているGIGAスクール構想により、子どもたちを誰一人取り残すことなく、その資質、能力を引き出し、伸ばすためのICT環境の整備を進めてまいりました。

本市においては、令和2年度、全児童生徒に1人1台端末を整備し、令和5年度には電子黒板を全普通教室に配備いたしました。

配備されたことにより、全小中学校においてデジタル教科書の活用の幅が大きく広がりました。

ここから、各学校での活用事例を3つ紹介いたします。

1つ目の事例は、ICT機器を活用した、学びにおける時間、距離などの制約を取り払う遠隔オンライン教育です。

学習者用デジタル教科書により、子どもたちは英語の本文をネイティブスピーカーによる音声でいつでも聞くことができるようになりました。

子どもたちは自分の学びやすい音声スピードで聞くことができるようになり、また、何度でも繰り返し聞くことができるようになりました。

タブレットを持ち帰ることで、授業時間だけでなく、家庭学習でも繰り返し学習できる環境が整えられました。

今から動画でお見せする授業は、学校に配置されているALTとオンラインでつないだ合計6人のALTと直接やりとりする活動を通して、デジタル教科書等で培った力を生かし、英語のコミュニケーション能力の向上を図る授業です。

ネイティブスピーカーのALTとの授業は、話す力、聞く力の向上、また、国際的な理解を深めることに繋がり、グローバル社会で活躍するための基礎となるものであります。

このような取り組みは、子どもたちの英語力の資質、能力の向上に繋がるとともに、意欲や自信に繋がっております。

それでは、6人のALTとコミュニケーションをしながら楽しく学んでいる子供たちの姿をご覧ください。

(動画視聴)

2つ目の事例を紹介いたします。ICT機器を活用した協働的な学びと、個々の子どもたちの興味関心に基づく教育です。

日立市が行っているNIE教育とICTを活用した株式学習ゲームに取り組み、現実社会の働きをつかみ、経済の仕組みを学ぶ授業です。

株式ゲームというのは、仮想所持金1,000万円を基に、東京証券取引所に上場している銘柄について、どの銘柄を売買するのかグループで議論しながら、実際の株価終値に基づいて株式の売買を行う学習ゲームです。

N I E教育と株式学習ゲームを行うことにより、文字だけでは学ばない体験学習が可能となるとともに、信頼性の高いメディアである新聞とタブレットを活用したネット情報を見比べながら、フェイクニュースに惑わされず、新聞記事を根拠に、確実な情報収集の方法について学ぶことができる機会ともなっております。

この授業を通して、子どもたちは、世の中の出来事によってどんな資金やサービスの需要が高まるのかを考察するなど、現在の生産や金融などの仕組みや働きなどを理解いたしました。

それでは、子どもたちが新聞、タブレットを活用して情報収集する姿、電子黒板に子どもたちの考えが共有される様子をご覧ください。

(動画視聴)

3つ目の事例を紹介いたします。ICT機器を活用してライブ配信したオンライン授業、つまり生中継で配信するオンライン授業です。

電子黒板を活用して、ベテランの先生が行う授業を2校の学校に配信いたしました。

今回お見せするのは、大久保小学校のベテランの先生が、油縄子小学校、金沢小学校に配信した授業です。

このような取り組みは、子どもたちが質の高い授業を受けることができ、学力向上が期待できるとともに、経験の浅い若手の先生の授業力の向上も期待できます。

この授業では、指導課で発行しているICT通信「G I G Aだより」で紹介したアプリを使用しています。

このアプリは、児童、生徒が各自のタブレットを活用して、画面上で文字による意見交換ができるものとなっております。

このアプリを活用して、ベテランの先生の授業を受けながら、自分の考えや意見をタブレットを介して発表したり、他の学校の児童と意見交換をしたりすることができます。

今回はどちらも5年生が1クラスの単学級の学校同士だったので、様々な考えに触れる良い機会となりました。

それでは、電子黒板を活用してベテランの先生の授業を受ける様子、子どもたちがタブレットを活用して意見を発表する姿をご覧ください。

(動画視聴)

最後に、ICT機器を活用した不登校児童生徒支援について紹介いたします。

まず、オンライン会議システム「Te a m s」を活用した支援です。

学校には行くことが難しいけれど、オンラインであれば参加できる子どもたちへの支援となります。

先ほどの映像にありました生中継のオンライン授業と同様に、学校に登校できない子どもたちがオンラインで授業を受けたり、担任の先生や養護教諭、スクールカウンセラーなどとオンラインで相談したり、休み時間に学校にいる級友とオンラインで会話したりする機会を

作っています。

そのほか、タブレットを活用しての学習支援をしております。

日立市が導入しているA Iドリル「ラインズeライブラリ」では、日立市の子どもたちは皆、このA Iドリルを使って学習の理解度に合わせた学びができています。

例えば、6年生が割り算の筆算を確認したくなったら、4年生の学習を振り返ることができます。

ミスが多くなってしまった学習があれば、類似した問題を提示してくれるので、学習の定着にも繋がっています。

もちろん、自分の学年より上の学年にもチャレンジすることができます。

また、各教科、各單元ごとの学習ができるので、学校で出された課題と関連するドリルに取り組むことができますし、他県を含む県立入試問題が掲載されておりますので、進路実現に向けた学習ができています。

オンライン授業に取り組めない児童生徒もおります。

その子たちのために、授業のノートを写真で撮り、不登校児童生徒が授業内容を確認できるようにしています。

そのほか、教科書にあるQRコードから学びの支援となる動画の視聴、県が公開している授業動画の視聴を紹介し、学びを止めないようにしております。

学校に登校できる子、オンラインで授業などに参加できる子、オンライン参加ができない子など対応は様々ですが、ICTを活用することによって、これからも誰一人とり取り残さない取り組みを続けてまいります。

以上で説明を終わりにいたします。

**市長**            ありがとうございます。ただいま指導課長からの説明がありましたが、ICTを活用した教育が進んでいること、また、子どもたちの順応の速さを感じました。

それでは、ここまでの説明と動画をご覧になって、委員の皆様から、「授業におけるICTの効果的な活用」について、ご質問や確認したい事項、ご意見などを伺いたいと思います。

はじめに委員からお願いいたします。

**委員**            ご説明ありがとうございます。

まず、良かったなと思う点をいくつか共有できたらなと思います。

1つは、個人だけではなくて、グループ活動でもICTを活用されている点、それからまた、新聞とかインターネットの情報を精査する、クロスチェックするという授業ができていて、先生方のそれぞれの創意工夫を感じることができました。

また、経験豊富な先生方の下で一緒に学ぶということで、若い先生

方も今後自信を持って授業を展開していけるのではないかなと思います。

それから、学校へ来ることがなかなか難しいお子さんに対しても、学びを止めないという意味で、ICT機器が活用されているということは素晴らしいと思いました。

一方、質問が1つあります。今回のICTを使ったグループ活動がありますけれども、実践的な体験をどうしてもいろいろな理由で苦手とするお子さんもいらっしゃるのではないかなと思います。

そういった場合に、先生方は、モチベーションを上げる上で、どのような声かけを行って活動に参加できるようにしているのか、御指導しているのかということ伺いたと思います。

市長 ありがとうございます。

ALTとオンラインによる交流を行うことに躊躇する子どもたちもいるように思います。

ただ単に英会話能力の差というばかりではなく、コミュニケーションに自信が持てない生徒もいると思うので、グループの中で友達の話す姿にも触発されて、いい影響が及ぶようになると良いなと思います。そのようなところについては、先生方が上手にアドバイスし、導いていく、そういった部分も必要なのではないかなと思っているところです。

ただいまの委員からのご質問について、教育委員会からお答えをお願いします。

指導課長 ただいまご質問がありました、児童生徒に対するICTを活用したグループ活動については、ICTを使用すること自体に興味を持つ児童生徒は多く、そういう意味でもICT活用は効果的だと考えております。

また、授業に取り組めていない様子の児童生徒がいた場合は、単に授業に興味を持つことができているというだけではないこともありますので、個別に声をかけている状況でございます。以上です。

市長 ありがとうございます。

やはりコミュニケーションは大人になってからも大事であると思います。

オンラインでコミュニケーションを図ること、対面でコミュニケーションを図ること、グループ内に直接入ってその中で活動するというようなことは、得意な子と不得意な子がいますね。

先生方にはコミュニケーションを取れるように個別に支援していただいていると思うので、それがとても大事なのではないかなと思います。

成長する過程において、他の方々とコミュニケーションを図ること

はとても大事なことなので、子どもの頃から促していく、見ていくということが必要だと感じます。

オンラインは閉鎖的な側面もあるので、周りのサポートが必要だと思います。

続いて、お願いいたします。

## 委員

まず私からは、感想と、1つ質問させていただきたいと思います。

最初の動画では、生徒の様子から、ALTの皆さんとコミュニケーションを楽しんでいる様子がすごく伝わってきて、とても良いなと思いました。ALTの新しい活用のあり方なのかなと思いました。

また、とても素晴らしい研究授業なので、広がっていくといいなとも思いました。

2番目の動画ですけれども、株や日本の今後の経済について、内容もとても興味深く拝見させていただきました。

私が見ていても、すごく面白いなと思いました。

NIEにICTを取り入れたことで、やはりタイムリーな部分ができてきているのかなということと、先ほどの説明でも、フェイクニュース対策になっていると聞いて、すごくそれは大事だなと感じました。

生徒の反応からも興味関心の高さが感じられたかなと思います。

あとは、最後の金沢小の授業ですけれども、各校1クラスずつしかないので、限られた範囲で生活しているのかなと思いますが、そういう子たちが、在籍している学校以外の児童と交流しながら、SNSの使い方も学べる内容を一緒に見て勉強できているというのはとても素晴らしいなと思いました。

あとは、そうして他校の児童と交流することは、子どもの興味関心とか、人との繋がりを広げるとか、たくさんメリットがあるのかなと思います。

先生も見守ってくれていますし、安心して関わることができているのかなというところですね。

こうした取り組みを広げていって、なおかつ継続していくために、今後必要なことや課題などありましたら、ぜひ教えていただきたいです。

## 市長

ありがとうございました。

英語教育環境はすごいですよね。私たちの頃は、もう少し会話できるような授業をやらないのかなと思っていましたが、今の子どもたちはすごいです。

新聞を見たり、電子黒板を見たり、普通の黒板を見たり、自分のタブレットを見たりして、目まぐるしい気もしますが、子どもたちはそのテンポについていきますね。

そういった意味で、ただいまの委員からのご質問について、教育委員会からお答えをお願いします。

指導課長 他校との交流などを継続していくということでのご質問につきましては、通信障害などトラブルが起こることがございます。

そのため、定期的な保守点検や更新をしています。また、授業の中心となる人材やICT機器などの確保が必須になっております。

市長 現実的にオンラインで学校を繋いで交流する機会はあるのですか。

指導課長 社会や国語に限らず、総合的な学習や生活科での関わり等で、オンラインで繋いだ授業がございます。

市長 やはり公開授業などではなく、普段の学習の中で、他校の生徒たちと一緒に共通の課題について取り組んで交流を図るというのは、ものすごくいいなと思いました。

市役所の職員研修などもそうですが、昔は、茨城県の研修所があって、そこに県内市町村から職員が集まっていると勉強するわけです。それがなくなってしまい、それぞれ研修を行っているのですが、私が研修をやっていた頃には、そのような他の市町村の職員と一緒に勉強ができる機会があり、とても良い経験だったなと思います。

公開授業だけではなく、通常の授業においても、他校の生徒たちと一緒にあって、共通の事柄について学び合うような機会は大事なのではないかなと思います。

今、子どもたちの人数が少なくなっているんで、いろいろな話を聞く機会は少なくなっているのではないかなと思います。そういったところで、オンラインやデジタル化が可能性をもたらしてくれるのではないかなと思っております。

続いていかがでしょうか。

委員 私からは、感想と、何点か質問をさせていただきます。

ICTは双方向に使えるところがやはり利点かなと思います。

ただ一方で、ICTばかりにとらわれて、知識定着のために自ら本を開いて、自分の手で書いて、口に出して読んだりすることも大事なのではないかなと思っております。

ICT活用が進んで、こういったデジタル教科書とかを使っていった、今後学力低下が出てこないかというのが少し心配なので、このあたりを質問させていただければと思います。

あとは、こういったネットが使える環境になると、テストなどで習熟度を計る場合に、検索できてしまう内容というのは、もう問われる必要がないのではないかなということも出てくるのかなと思います。

周りにICTという手段が増えたことで、今後どのような教育を行っていくことが大事なのか、正解のない答えを考える力と、それを実行する力を伸ばしていくためにどういった教育をしていけばいいの

か、どのように考えているかを質問させていただければと思います。

**市長**            ありがとうございました。  
今、委員からお話がありましたが、私自身としては、今までの紙ベースの教科書でやってきたようなところにデジタルを取り入れて、より学びやすく、生徒たちが理解しやすいような環境にしていくことが大事だと思います。  
今までのものを全て排除して全てデジタル教育でやっていこうというのは無理な話だと思います。  
そこは私も委員と共通するのですが、今までの教育指導のあり方というものをベースにしながら、デジタル教育の利点、メリットをたくさん入れ込みながら変えていく、そういうようなものでないと、今までのやり方が否定されて変わってしまったのはどうなのかなとも思います。  
それでは、ご質問に対して、教育委員会からお答えをお願いします。

**指導課長**        それでは、学力低下の懸念ということについてお答えします。  
ICTの活用が進んでも、文部科学省が認定した教科書をもとに、デジタルの力でリアルな学びを支えているというところで、基本的な考えを持っております。  
ですので、学力の定着にも継続して取り組んでいるところでございます。  
また、正解のない答えを考える力とそれを実行する力の育成についてですが、学校現場においても、変化の激しい時代において、生涯にわたり主体的に学び続けて、自ら課題を解決する力を児童生徒に身につけさせることの重要性を捉えているところでございます。  
教師から与えられるだけではなく、自分で調べて表現して、これまで考えたことを伝え合う活動を行う上で、ICTは有効なツールと考えております。  
これまでの指導方法とICTを活用した新しい指導法を適切に交えて活用しまして、未来を拓く児童生徒を育成してまいりたいと考えております。以上でございます。

**委員**            ありがとうございました。  
特殊詐欺などに巻き込まれる若い人も増えてきているので、そういったことも学べる機会があるといいのかなとも思いました。

**市長**            ありがとうございました。  
普通の学校教育の中で、タブレットを活用した授業はどのぐらいの割合でやっているのでしょうか。  
今までどおり教科書とノートなどを使った授業が多いのか、それともタブレットを使った授業が多いのか、どうでしょうか。

生徒の皆さんは、教科書とノートを机に置いて授業を受けているという感じですか。

**指導課長** 教科書とノートは以前のように置いてありますし、子どもたちが書くことが必要であればノートにメモを取りますし、書くこともいたしません。

また、どちらかという、タブレットはツールということですので、今までの定規とかコンパスのような、文具のような扱いとして子どもたちは捉えていますので、必要な時に出して使う、必要な情報が欲しい時にインターネットに繋いで学習し、ノートに自分の考えをまとめていくといったことも従来通り行われております。

**市長** 「タブレットで調べてみましょう」といったこともあるのでしょうか。

**指導課長** もちろん、「皆さん一緒に調べてみましょう」ということもありますし、「先生、ちょっと調べていいですか」ということもありますし、その場に応じての対応にはなりますが、子どもたちはどんどんいろいろな場所で活用しており、体育においても活用しています。

**教育長** タブレットの活用としては、国語、算数、理科、社会、英語だけということではなくて、体育とか音楽とか美術とか、各教科でも活用しています。

例えば体育で跳び箱をやる時、友達に自分が跳ぶ姿をタブレットで撮ってもらって、動画を見返して、「ここはこう直したらいいね」というような授業があります。

あるいは理科や生活科で、校庭にある植物をタブレットで撮り、それをみんなで見せ合うこともあります。

美術でも、友達の作品をタブレットで撮って、お互いに評価をし合うとか、音楽でタブレットを使って自分で曲を作ってみようとか、そういうところで、全ての教科でいろいろな使い方を工夫しながら活用しているところです。

**市長** 教科によっていろいろな使い方ができますね。  
それでは、続いていかがでしょうか。

**委員** 私からは、感想2点と質問が1点ございます。  
私も学校に行って授業参観をする機会がありますが、先生方はまず電子黒板を使っていますね。

それから、タブレットを使って子供たちが楽しそうにいろいろな教科で学んでいる姿を見て、行くたびにすごいなと思っています。

子どもたちが進歩しているし、先生方の授業力が向上していて、タ

タブレットの活用の仕方也是如此し、子どもたちがそれを受けて、どんな風に授業の中で使っていくか、ICTが生かされている授業を度々見ることがありました。

まず事例2ですが、まさに児童生徒1人1人の調べ学習に対して、教師側の支援というのが重要なのかなと改めて感じました。

先ほどの話の中にもあったように、あれだけの資料をどう取捨選択していくか。

中には、なかなかできないお子さんもいると思うので、そこをうまく教師がリードしていく必要があるのかなと感じました。

2点目は事例3なのですが、非常に質の高い授業を、発信校から他校へ配信するオンライン授業について、これからの学習スタイルだな、素晴らしい授業だったなど感じました。

質問になります。先ほどからも話が出ていましたけれど、まさにハイブリッド型の教育の推進というのが大切なのかなと思います。

ICTとアナログのバランスの良い授業を考えていくということで、教育委員会の取り組みを改めて教えていただければと思います。

まさに、文字を手書きすることとか、実験、実習等の体験的な学習が非常におろそかになるのではないかという危惧もあるということで、お答えをお願いします。

市長 ありがとうございます。

今、委員がおっしゃったように、デジタルとアナログを組み合わせたハイブリッド教育というバランスを求めてやっていく必要があるのかなと思います。

それでは、教育委員会からお答えをお願いします。

指導課長 バランスの良い授業についてです。

日立市教育委員会では、デジタルとアナログの効果的な組み合わせを推進しております。

学校訪問の機会では、デジタルとアナログの使い分けについて助言し、どちらかに偏ることがないように指導しているところでございます。

また、教職員向けに発行する本市の学校教育の方向性を示す「日立の学校教育」で、黒板の板書と電子黒板の使い方や具体的なICT活用例を掲載しております。

さらに、ICT支援員を配置いたしまして、教師のICT活用指導能力の向上に向け、各学校の要望に応じた研修を実施しているところでございます。以上でございます。

市長 ありがとうございます。

タブレットは、子どもたちが帰宅してからどれくらい使われているのでしょうか。使用頻度について調査したことはありますか。

- 指導課長 家庭学習で使用したことがありますかという質問で、学校調査をしたことはございます。  
全学校で、家庭学習において活用しているという回答を得ております。
- 市長 そういったことをもう少し細かく調査する必要があるのではないのでしょうか。  
画面をたくさん見ていることによって集中力が欠けるとか、健康に良くないとか、いろいろな弊害もあると思います。  
子どもたちの健康面にどういった影響を及ぼすのかというところも気にされると良いかと思います。  
続きまして、ICT機器を活用した不登校児童生徒などへの支援について、今後どのような取組を期待するか、ご質問やご意見などを伺いたいと思います。
- 委員 先ほどもご説明いただきましたけれども、授業以外でも学校、学級と繋がっていらっしゃるということで、学校に行けなくても誰かと繋がっているという感覚が得られることはとてもいいことだと思います。そういうことをきっかけに学校へ来られる回数が少しでも増えたらいいのかなと思いますし、親御さんもそういうことで、少し気持ちが楽になればいいかなと思って先ほどの説明をお聞きしました。
- 指導課長 今後も、児童生徒や保護者の気持ちに寄り添いながら、委員のおっしゃった子どもたちとの繋がりを大切にして支援してまいりたいと思っております。
- 市長 ICTによって新たな展開ができてきているわけですが、実際にどのような様子が見られるのでしょうか。
- 指導課長 様々な対応にはなりますけれども、授業に参加できると答えてくれた子どもたちは、タブレットを見てオンラインで繋がっていますし、教室の子どもたちがそこから話をしてコミュニケーションを取っている姿もございます。
- 市長 それでは、続いてお願いいたします。
- 委員 私も、日立市のICTを活用した不登校支援にすごく期待しております。  
不登校支援というと、「ちゃれんじくらぶ」があるかなと思います。やはり「ちゃれんじくらぶ」にも、通級が難しい子どもたちは少ないのかなと思っています。

I C Tの不登校支援は、基本的に、担任の先生や不登校支援の先生が個別に対応しているケースが多いのではないかなと思っていて、それだけでは子ども同士の繋がりや他の大人との繋がりもすごく少ない状況にあるのかなと思いました。

例えば最近、メタバースの不登校支援をしている市町村や、ゲームみたいなものができるようなオンライン上の支援をしているところも少しずつ増えてきているので、オンラインで「ちゃれんじくらぶ」に繋げて他の子どもたちと交流するとか、思い切ってオンラインでも「ちゃれんじくらぶ」を作るとか、そういうことがあるといいのかなと思いました。

現時点での教育委員会の見解をお聞きできたらいいなと思います。よろしくをお願いします。

**市 長** オンラインで繋がるのが、道を拓くきっかけになる場合もあるかなと思います。

それでは、教育委員会からお答えをお願いします。

**教育研究所長** 適応指導教室「ちゃれんじくらぶ」では、児童生徒が安心して暮らせる心の居場所を提供し、温かく見守り、励ましています。

通級の過程でエネルギーを蓄え、自立心や適応力を養いながら、社会的な自立を目指して支援を行っているところです。

また、体験活動を充実させるため、施設見学などを通して生活の場を広げて、様々な人々と交流することで自己理解や他者理解を深めているところです。

市内の学校ではオンラインによる学習支援を行っていることから、適応指導教室「ちゃれんじくらぶ」においても、学校に行けず、オンラインでも繋がることもできない児童生徒に対して、「ちゃれんじくらぶ」とオンラインで繋げることを検討してまいりたいと考えております。

**市 長** こういった環境が整っていても、「ちゃれんじくらぶ」になかなか行けない子もたくさんいらっしゃいます。「ちゃれんじくらぶ」に通うことに固執しすぎず、可能性を探っていくことが大事かなと思います。

それでは、続いていかがでしょうか。

**委 員** 感想になりますが、やはり1人1人に寄り添ったところがどうしても大事なかなと思いました。

それから、大久保中でやっているような新しい取組などをもう少し広げて、通信制のようなカリキュラムとか、そういったものにしていくといいのではないかなと思いました。

- 市長 ありがとうございます。  
それでは、続いてお願いいたします。
- 委員 3点ほどございます。  
1点目は、まさにICTを活用した家庭学習の支援というのは、不登校の児童生徒が教育の機会を得るだけでなく、まさに社会との繋がりを保つことが可能になる重要なツールかなと改めて思っています。  
2点目は、家庭にしながら学び続ける仕組みの充実というのが、友達、先生方の交流を通じて孤立感を軽減する非常に有効な方法ではないかなと思っています。  
最後に3点目です。「いばらきオンラインスタディ」という、茨城県で行っている授業動画の配信等の活用というのも有効な手段なのではないかなと考えています。  
非常に優れた動画で、先生方が一生懸命作ってくれたものを私も何度も見えています。素晴らしい授業内容ですので、それを見ることによって、その場でいろいろな教科を学ぶことができるというものです。
- 市長 ありがとうございます。  
委員からのご意見について、教育委員会からお答えをお願いします。
- 指導課長 「いばらきオンラインスタディ」は、日立市の教職員も作成に携わっておりますので、今後も「いばらきオンラインスタディ」を有効活用して、学習が続けていけるように推進してまいりたいと思っております。
- 市長 ありがとうございます。  
今、日立市は人口が流出していますけれど、やはり「日立市の教育って素晴らしいよね」「だから日立市から離れてはいけないよね」と評価されるようにしないとイケない。  
やはり医療や教育というのは、この町にとどまらせるために有効なものだと思います。  
「県内の1番の学びの場は日立市」というくらいの気持ちを持って、教育内容でもっと日立市の教育をアピールしていくことが大事なのかなと思います。  
ただ、ICTだけではなく、やはりハイブリッドの教育を心がけながら教育の質を高めていくことが大事なのではないかなと思います。  
ここまで、皆さんにいろいろなご意見をいただきました。  
今後も、授業においてICTをいかに効果的に活用できるか、検討させていただきます。  
それでは、最後に教育長からコメントをお願いします。

## 教 育 長

小川市長、教育委員の皆様から貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

まず初めに、ICTが必要とされる背景ですけれども、今動画で見ていただきましたように、やはりICTを用いた学習の改善、というのが1つございます。

もう1つは、やはり、これから子どもたちが生きていく社会、いわゆるデジタル社会の中で、自立して行動できる能力の育成です。

デジタル社会の中で、子どもたちが自分自身でデジタルを使いこなして、社会の中で自立していくことは必要で、先ほど社会科の授業の動画でもありましたけれども、例えばフェイクニュースに惑わされないとか詐欺に引っかからないとか、そういったところも含めて、やはりデジタル社会の中でどう生きていくかというところを教育の中でも考えていかなければいけないと思います。

そういう中で、国も、令和の日本型教育の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方として、学校教育の基盤的なツールとしてICTは必要不可欠なものであると述べています。

それから、これも市長からもありましたが、これまでの実践とICTを最適に組み合わせていく、そういうことを基本方針として国も挙げています。

本市におきましても、先ほど指導課長から説明がありました、日立市学校教育振興計画の4つの大きな視点の1つとして、デジタル化を掲げているところでございます。

今日ご覧いただいたように、デジタル教科書と電子黒板、そして従来の黒板を組み合わせ、子どもたちの主体的で深い学びのための授業とか、複数の場所を同時にインターネットで結んで、個別あるいはグループ一斉で授業を進めるなど、今までできなかった学習活動が、このICTの効果的な活用によって進めることができます。

それから、デジタル教科書やAIドリルの活用によりまして、家庭など、学校外での学びの充実を図ることができます。

また、特別支援が必要な子どもたちへ、例えばデジタル教科書の拡大縮小や音声機能、ルビなどを、きめ細やかな支援に使えます。

また、個人個人の可能性や才能を伸ばす高度の学びの機会を提供することに活用できます。

先ほど、例えば5年生、6年生が、2年生、3年生の掛け算などを復習するというのもありましたし、それは逆のこともあって、2年生、3年生が、4年生、5年生、6年生、あるいは中学生の問題にどんどんチャレンジしていくというような使い方もできるということです。

そういった子どもたち1人1人に寄り添った学びを行うことができるということがあるかと思えます。

そしてさらには、これも話題に出していただきましたけれども、登校が難しい子どもたちの学びの提供の場として、1人1人誰も取り残

さない教育というのが可能になっていくというところでございます。

ただ、そのためには、これも教員の資質能力の向上や研修というのは欠かせないものがありますので、それも教育委員会として今後も取り組んでいく課題ということになります。

それから、環境整備につきましては、市長にも大変お世話になっているところですが、これからも定期的な保守や更新に対応していかなければならないところです。

これも今日話題になりましたが、紙の教科書、デジタル教科書のメリット、デメリットについて、市長からも懸念をいただきましたけれども、紙のページを触ってめくったり、あるいは鉛筆でメモして書き込んだりした方が記憶に残るのではないかというご意見も当然ございます。

デジタル教科書と普通の紙の教科書でどちらが学力が定着するかというところについては、まだ十分に検証できていないところがあります。デジタル教科書を正式な教科書として認可していくための道筋もこれからというところがありますので、そういったところは動向をしっかりと見極めていかななくてはならないというところです。

それからもう1つ、先ほど集中力の懸念という話もありましたけれども、やはり子どもたちがインターネットで調べている中で、違うところに興味を持ってそちらに気を取られてしまう、今調べている課題ではないところに気を取られてしまうということは当然ありますので、今後ICT機器を活用した教育を普及していく中でどのように対応していくかという課題もございます。

また、先ほど市長からChatGPTという話がありましたけれども、AIについてです。

世の中にはこれだけAIが広まっている中でございますけれども、学校教育の中でAIをどう活用していくかというところはまだ道半ばというか、国でもはっきりとした指針はまだ示されていないところもございますので、課題があるかと思っているところです。

まとめとしましては、今のデジタル社会に対応することは絶対に必要なことですが、そのメリット、デメリットを十分に考えながら、先ほど市長がおっしゃったように、「教育は日立市で」と思ってもらえるような教育内容の充実について、これからも取り組んでまいりたいと思いますので、委員の皆様、そして関係者の皆様には、これからもご理解、ご支援をどうぞよろしくお願いしたいと思います。

市長                    ありがとうございます。  
                              それでは、教育部長いかがでしょうか。

教育部長            本日のテーマはICT教育ということですが、こういった先進の新しい道具ですが、道具は手段であるということが現実を見てわかりました。

子どもに火の使い方を教える時、大人は火が燃え移ったら火事になる、手で触ったら熱いということをわかった上で教え、料理をして包丁の使い方を教える時には、手を切る、人に向けたら危ないというのは、自分がわかっていて教えられますが、このICTについては、先生方、そして我々大人も新しいものであるためにわからなくて使わせているという危うさも内存していると思うので、私たち大人は、新しいものだからわからない、ということではなく、自らそれを使ってみて、子供たちにかくあるべきだということが言えるように、たゆまず努力していきたいなと思います。

年を取ってもチャレンジし続けるというところが教育として大事なのかなと考えます。

市長 ありがとうございます。

長時間になりましたが、以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了したいと思います。

それでは、進行を事務局にお返しします。

### 3 閉 会

総務課長

長時間にわたり、意見交換いただきありがとうございました。

本日の総合教育会議でございますが、地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的として開催されたものでございます。

本日いただきました多くの貴重なご意見を基に、「全ては子どもたちのために」、「教育は日立市で」と思っていただけのように、さらなる教育環境の充実に努めてまいります。

以上をもちまして、総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。

以 上